

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101652		
法人名	社会福祉法人 すだち会		
事業所名	すだち会グループホーム		
所在地	徳島市大原町余慶71番地の2		
自己評価作成日	令和1年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関先に多種多様な木や花を植えたり、敷地内の畑で利用者様と職員が野菜を育て、住宅街の中にあっても自然や季節を感じられるよう気をつけている。月1回開催している「すだちカフェ」では、地域住民やボランティアの方との交流を通し、利用者様が地域の一人として地域とつながりながら、自分らしく暮らし続けられるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街や田園に囲まれた、自然豊かな環境のなかにある。玄関先に、多種多様な木や花を育てたり、お正月には、季節の風物詩である門松を飾ったりして、利用者が四季の移ろいを感じることができるよう工夫している。毎月恒例の「すだちカフェ」に、認知症サポーター養成講座を加えて開催し、利用者と地域住民、ボランティアとの交流を広げ、地域の福祉拠点として役割を果たすことができるよう取り組んでいる。利用者の誕生日には、希望する所への外出を個別に支援するなど、暮らしのなかで生きる喜びを感じることができるよう支援している。職員は、利用者一人ひとりの心身機能の維持やサービスの質の向上に向けて、実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			ユニット 1		
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、理念の実現に向けての基本方針と職員の心得を、毎日の朝礼で再確認し、支援の原点として日々の実践に活かす介護を心掛けている。	事業所は、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を掲げている。理念の実現に向けて、基本方針とともに“職員の心得”を原点としている。職員間で共有化を図り、日々の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月の「すだちカフェ」や「認知症サポーター養成講座」を開催することで、地域の福祉拠点としての使命や役割を地域住民等に伝え、利用者様が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。	事業所は、地域の小学生の来訪を受け入れたり、毎月、「すだちカフェ」や「認知症サポーター養成講座」を開催したりして、地域と交流している。花火大会では、夜のカフェやオープンカフェにアレンジして開催することもある。地域住民の参加を得られるように、団地内にポスターを貼り出すなど、工夫している。地域の福祉拠点として、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内で開催する「認知症サポーター講座」や「すだちカフェ」を通して、利用者様が地域の方々と直接触れ合うことで、認知症の人の理解や支援の方法を広く伝えることができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、利用者様の状況や行事について報告すると共に、職員の研究発表や出席者からの意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の報告のほか、その時々テーマについて出席者との意見交換を行っている。出された意見等は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接、市の担当窓口に出向き、運営推進会議の議事録・利用実績報告書等の提出や要介護認定の更新手続きを行い、事業所の運営やサービス等への助言・協力を得ることができるよう取り組んでいる。	管理者は、市の担当窓口に出向き、利用者の現状や事業所の活動状況を伝えるとともに、制度改正や運営についても助言を得ている。“すだちカフェ”の開催にも協力を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の弊害や内容を理解できるよう、研修や勉強会の機会を設け、全員が身体拘束の弊害を理解し、安全に十分配慮したうえで、階段やエレベーターを自由に利用することも含め、身体拘束をしないケアに取り組んで、利用者様の暮らしを支援している。	事業所では、身体拘束の内容や弊害について勉強会や研修を行い、職員間の理解を深めている。職員間で話しあいつつ、利用者の心身状況や安全面に配慮して、階段やエレベーターを自由に使用できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を基に、内部での勉強会で理解を深め、事業所内や利用者様の周囲での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、日常生活自立支援事業や成年後見制度で支援をしている方や利用しているご家族様からの話を聞いたり、研修に参加して学習し、必要時には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学をしていただき、入居契約締結時や解約・改定等の際は、管理者がご本人様やご家族様に十分な説明を行い、不安や疑問・不明な点にも答えて理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様一人ひとりに担当職員を定め、日々の関わりの中で寄り添いご本人様の思いを大切にされたケアに取り組んでいる。運営推進会議をリビングで開催し、利用者様やご家族様が出席しやすいよう配慮し、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。	職員は、利用者や家族等との日ごろのかかわりのなかで、意見や要望の把握に努めている。家族の来訪時や年1回の家族会を、家族の意見を把握する機会としている。得られた意見は、全職員で共有し、話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が、利用者様との関わりの中で気付いたことや思い、アイデアなどを毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングで話し合い、日々のケアに取り入れている。	管理者は、日ごろから職員が意見を伝えたり、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。月1回のミーティングでも職員の意見や提案をきいている。出された意見等は、職員間で話しあい、運営面やサービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が、やりがいや向上心を持って働くことができるよう、法人内外の研修への参加を勧めたり、資格取得に向けた支援や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、法人内外の研修を受講できる機会をつくり、個人のスキルアップを図っている。研修内容は、ミーティングで発表したり報告書を全職員で回覧し、日頃のケアの中での実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での研修会や催し物見学などに積極的に参加し、事業所での行事にお誘いするなどして、同業者との交流を通して、情報交換や勉強を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が受け入れやすい態度や表情、言葉遣いを心がけ、ご本人様にゆっくり向き合って耳を傾け、困っていることや要望を受け止め、安心感が持て信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とお会いした際には、困っていること・不安なこと、悩みや要望などに耳を傾け、共有し、安心感が得られるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合いをし「その時」どのような支援を必要としているかを見極め、協力病院に相談したり、必要なら他のサービス利用を紹介するなど、事業所として柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様に対して生活のパートナーとしての意識を持ち、利用者様に寄り添い、話を聞き、支え合う、家族のような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、いつでも気軽に来ていただける雰囲気づくりをし、面会時に近況報告をしたり、行事参加の時には楽しい時間を共に過ごしていただけるよう配慮し、ご本人様と共に支援する関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた馴染みの場所への外出支援を行うなど、ご本人様が培ってきた人間関係や社会との関係が継続できるよう支援している。また、利用者様とご家族様との絆を大切に捉え、買い物や通院、外出・外食などを共に支援している。	事業所では、利用者がこれまで通っていたデイサービス等、馴染みの場所へ出かけることを支援している。家族の協力を得て、一時帰宅をしたり、墓参りに出かけたたりしている。職員は、利用者が今まで培ってきた人や場所との関係を大切に、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの食事やレクリエーションなどの時には、各自の個性を考えながら、利用者様同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう、座席の配置に配慮した、り声かけ・関わりを行って、利用者様が孤立せず支え合えるような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居などで他の施設に移っても、利用者様と共に面会や訪問をして経過を見守り、相談に乗るなどしてご本人様やご家族様との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者様と個別に寄り添う機会をつくり、日頃の何気ない会話や視線の動き、表情などから生活への思いや意向を汲み取り把握するよう努めている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、視線や表情の変化等から、思いや意向の把握に努めている。また、利用者一人ひとりに寄り添う機会をつくり、その時々思いや状況に応じた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、ご本人様の行動やつぶやき、利用者様同士の会話から情報を得ると共に、入居時のアセスメントでご本人様の生活歴や経過などを把握し、安心して、自分らしく今までの暮らしが続けられるよう、一人ひとりに合った支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から一人ひとりの出来る力・わかる力の把握に努め、毎朝のバイタルチェック時には、一人ひとりのその日の体調や機嫌を感じ取り、ご本人様のペースで一日を過ごすことができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ご本人様やご家族様の意向を尊重した上で、職員が気付いたことやアイデアを出し合い、評価やモニタリングを繰り返し行いながら、現状に即したものを作成・見直しを行っている。	事業所では、利用者や家族の思いや要望を反映した介護計画を作成している。定期的にモニタリングや見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めているが、利用者の日々の細かな変化に応じて計画を変更するまでには至っていない。	今後は、当初の計画を継続するだけでなく、利用者の現状等を鑑みて、計画を見直し、変更することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の毎日の発言や行動、健康状態等を記入する個人記録を作成し、職員間で情報を共有しながら、日々の介護に活かしたりサービス計画の見直しに有効活用できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況、ニーズに対応して柔軟な支援を心がけている。また、近隣の高齢者の相談に対応する機会として、月に1回のカフェ開催時に事業所を開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様に`地域の中で笑顔と安心に満ちた毎日`を送っていただけるよう、さまざまな地域資源を把握し、交流を図り、人の力や場を借りられるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の段階で、ご本人様やご家族様が希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。また、ご家族様と連絡を取り合い、協力を得て専門科の受診をしたり、かかりつけ医や協力医療機関と連携を図り、適切な医療が継続して受けられるようにしている。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。専門医の受診については、家族の協力を得ている。医療機関と連携を図り、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、利用者様一人ひとりの体調や表情の変化に気付き、見逃すことのないよう、見守り、観察を行って異常の早期発見に努め、病院看護師や訪問看護師と常に連携をとりながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、病院関係者との情報交換に努め、入院時には、ご本人様の不安が軽減できるように頻繁にお見舞いに行き、安心して治療をし、早く回復できるように支援している。また、退院前には病院でのカンファレンスに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできることを明確にしつつ事業所の方針を説明し、ご本人様の意志やご家族様の意向を確認している。利用者様の心身状況の変化に応じて、ご本人様やご家族様の意向を再確認し、支援に取り組んでいる。	契約時の段階で、利用者と家族に重度化や終末期における支援のあり方について説明し、同意を得ている。利用者様の心身状況の変化に応じて、利用者や家族に意向を再確認している。医療機関と情報や対応方針を共有しつつ、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に、慌てることなく適切な処置が確実にできるようなマニュアルを作成し、実践力を身に付けられるよう内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震・水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者様が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、一人ひとりの状態を把握し、それぞれい対しての具体的な救助方法を検討し訓練を通して実践している。	年2回、消防署の協力や地域住民の参加を得て、避難訓練を行っている。毎月、利用者の現状に応じて避難経路や誘導方法を具体的に検討するなど、自主防災訓練に取り組んでいる。5日間の備蓄品を用意し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	ユニット 1	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や人格を尊重し、尊厳やプライバシーを損ねることなく、その方に合った支援ができるよう職員間で確認し合っている。個々の性格や生活パターンを把握し、さりげない気配りや声かけに配慮したケアの実践に取り組んでいる。	職員は、利用者との日ごろのかかわりのなかで、利用者に寄りそいながら、状況に配慮した支援に取り組んでいる。職員間で、日ごろの支援のあり方について相互確認を行うなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での、何気ない会話やしぐさ・表情から思いや希望を汲み取り、たくさんの選択肢の中で、その人らしく自己決定のできる生活が送れるよう支援している。利用者様との会話を心がけ、待つ姿勢を持つことで、ご本人様の思いが表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の一日の生活を大切にし、ご本人様のペースでゆったりと過ごしていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握し、普段から清潔でその人らしいお洒落ができるよう支援している。また、お洒落をすることによって気分転換が図れるよう、外出時には、好みに合った衣類を購入し普段から自己選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内に炊事場があるため、調理風景を見たり香りを感じられる。事業所の畑で採れた季節の食材を使い、野菜の下ごしらえなどを手伝っていただくことにより食事への関心を高められるよう努めている。利用者様と職員が一緒に食卓を囲み家庭的な雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。	食事は、事業所内で育てた野菜を用いて、調理している。利用者と職員で食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事をとっている。食後には、コーヒータイムを設けるなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士が作成した献立を参考にし、栄養が偏らないようバランスに富んだ食事を提供している。個々の状態に応じた、食事形態や調理法、食事量や飲み物を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が口腔内の清潔保持の重要性を十分に理解し、食後のうがいや歯磨き・義歯洗浄など、その人に応じた支援を行い清潔保持に努めている。定期的に歯科衛生士の指導と歯科医師の診察を受け口腔ケアの大切さを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報を共有し、個々の排泄パターンや個々への必要なケアを理解することによって、トイレでの自立した排泄ができるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。個別の状況にあわせて、さりげない声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で、こまめな水分補給や活動量の確保、食事内容の工夫を行い、個々に応じた便秘予防に努めている。排便時には、腹部のマッサージにより腸の動きを促すことにも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援を行い、入浴が楽しい時間になるよう努めている。また、自宅で入浴している時と同じように、ゆっくりゆったりと寛ぐことのできる時間になるよう努めている。	事業所では、利用者の心身の状況にあわせて、週2回は入浴することができるよう工夫している。職員は、利用者の思いを把握することができる大切な時間として、入浴時間をとらえ、リラックスして入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には、時間を変えるなどして、無理強いすることなく入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に応じて休息時間を設け、生活リズムを整えられるよう支援している。馴染みの寝具やお気に入りのぬいぐるみを置いたり、室温にも気を付け、落ち着ける環境を整え安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の大切さや内容を理解し、飲み忘れや間違いのないよう重ねて確認をしている。薬の変更があった時には、症状の変化や普段と違う気付きを見逃さないよう職員間で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で、ご本人様の希望に沿って、洗濯量みや草抜きなどを役割として担っていただき、日々の生活に楽しみや張り合いを持つことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる外出や誕生日外出など、一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう努めている。日常的な散歩として近所へ出掛けたり、小学生や地域の方との交流を図れるよう支援している。	事業所では、日ごろから、事業所の周りを散歩するなど、外出する機会を設けている。誕生日には、利用者の希望に応じた外出を個別に支援している。初詣や植物園へのピクニックなど、季節に応じた外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご本人様が金銭を管理することの大切さを理解し、個々の状態によって所持ができるよう支援している。買い物外出時には、一人ひとりの能力に合わせて金銭を使用し、社会とのつながりが維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿って、いつでも家族様や大切な人に連絡が取れるよう支援している。電話や手紙を使い、一人ひとりの能力に合わせて支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花や利用者様の作品、行事の写真などを飾り、利用者様がゆったりと居心地よく過ごす事ができるよう、明るい雰囲気づくりに努めている。	共用空間は、大きな窓から暖かな日差しが差し込み、明るい。各所に季節の花を飾ったり、お正月には、玄関前に門松を飾ったりして、利用者が季節の移ろいを感じながら、居心地よく過ごすことのできる空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファを置き一人の時間をゆったりと過ごすことができたり、利用者様同士で会話を楽しむなど思い思いの場所で寛ぐことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人様が安心して過ごすことができるよう使い慣れた家具や馴染みのある品を持ち込んでいただいたり、ご家族様の写真や好みのポスターを飾るなどし、一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう支援している。	事業所では、入居時に利用者や家族等と相談し、利用者の使い慣れた馴染みの家具や調度品等を持ち込んでもらっている。ベランダに洗濯物を干すこともできる。利用者一人ひとりの希望にそって、居心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、日々の生活の中で、一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、それぞれに合った支援により、雑巾を使い掃除をしたりベランダで洗濯物を干したりと、できるだけ自立した生活を安全に送っていただけるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、理念の実現に向けての基本方針と職員の心得を、毎日の朝礼で再確認し、支援の原点として日々の実践に活かす介護を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の「すだちカフェ」や「認知症サポーター養成講座」を開催することで、地域の福祉拠点としての使命や役割を地域住民等に伝え、利用者様が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内で開催する「認知症サポーター講座」や「すだちカフェ」を通して、利用者様が地域の方々と直接触れ合うことで、認知症の人の理解や支援の方法を広く伝えることができるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、利用者様の状況や行事について報告すると共に、職員の研究発表や出席者からの意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接、市の担当窓口に出向き、運営推進会議の議事録・利用実績報告書等の提出や要介護認定の更新手続きを行い、事業所の運営やサービス等への助言・協力を得ることができるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の弊害や内容を理解できるよう、研修や勉強会の機会を設け、全員が身体拘束の弊害を理解し、安全に十分配慮したうえで、階段やエレベーターを自由に利用することも含め、身体拘束をしないケアに取り組んで、利用者様の暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を基に、内部での勉強会で理解を深め、事業所内や利用者様の周囲での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、日常生活自立支援事業や成年後見制度で支援をしている方や利用しているご家族様からの話を聞いたり、研修に参加して学習し、必要時には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学をしていただき、入居契約締結時や解約・改定等の際は、管理者がご本人様やご家族様に十分な説明を行い、不安や疑問・不明な点にも答えて理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様一人ひとりに担当職員を定め、日々の関わりの中で寄り添いご本人様の思いを大切にケアに取り組んでいる。運営推進会議をリビングで開催し、利用者様やご家族様が出席しやすいよう配慮し、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が、利用者様との関わりの中で気付いたことや思い、アイデアなどを毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングで話し合い、日々のケアに取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が、やりがいや向上心を持って働くことができるよう、法人内外の研修への参加を勧めたり、資格取得に向けた支援や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、法人内外の研修を受講できる機会をつくり、個人のスキルアップを図っている。研修内容は、ミーティングで発表したり報告書を全職員で回覧し、日頃のケアの中での実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での研修会や催し物見学などに積極的に参加し、事業所での行事にお誘いするなどして、同業者との交流を通して、情報交換や勉強を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が受け入れやすい態度や表情、言葉遣いを心がけ、ご本人様にゆっくり向き合って耳を傾け、困っていることや要望を受け止め、安心感が持て信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とお会いした際には、困っていること・不安なこと、悩みや要望などに耳を傾け、共有し、安心感が得られるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合いをし「その時」どのような支援を必要としているかを見極め、協力病院に相談したり、必要なら他のサービス利用を紹介するなど、事業所として柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様に対して生活のパートナーとしての意識を持ち、利用者様に寄り添い、話を聞き、支え合う、家族のような関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、いつでも気軽に来ていただける雰囲気づくりをし、面会時に近況報告をしたり、行事参加の時には楽しい時間を共に過ごしていただけるよう配慮し、ご本人様と共に支援する関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた馴染みの場所への外出支援を行うなど、ご本人様が培ってきた人間関係や社会との関係が継続できるよう支援している。また、利用者様とご家族様との絆を大切に捉え、買い物や通院、外出・外食などを共に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの食事やレクリエーションなどの時には、各自の個性を考えながら、利用者様同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう、座席の配置に配慮した、リ声かけ・関わりを行って、利用者様が孤立せず支え合えるような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居などで他の施設に移っても、利用者様と共に面会や訪問をして経過を見守り、相談に乗るなどしてご本人様やご家族様との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者様と個別に寄り添う機会をつくり、日頃の何気ない会話や視線の動き、表情などから生活への思いや意向を汲み取り把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、ご本人様の行動やつづやき、利用者様同士の会話から情報を得ると共に、入居時のアセスメントでご本人様の生活歴や経過などを把握し、安心して、自分らしく今までの暮らしが続けられるよう、一人ひとりに合った支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から一人ひとりの出来る力・わかる力の把握に努め、毎朝のバイタルチェック時には、一人ひとりのその日の体調や機嫌を感じ取り、ご本人様のペースで一日を過ごすことができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ご本人様やご家族様の意向を尊重した上で、職員が気付いたことやアイデアを出し合い、評価やモニタリングを繰り返し行いながら、現状に即したものを作成・見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の毎日の発言や行動、健康状態等を記入する個人記録を作成し、職員間で情報を共有しながら、日々の介護に活かしたりサービス計画の見直しに有効活用できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況、ニーズに対応して柔軟な支援を心がけている。また、近隣の高齢者の相談に対応する機会として、月に1回のカフェ開催時に事業所を開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様に`地域の中で笑顔と安心に満ちた毎日`を送っていただけるよう、さまざまな地域資源を把握し、交流を図り、人の力や場を借りられるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の段階で、ご本人様やご家族様が希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。また、ご家族様と連絡を取り合い、協力を得て専門科の受診をしたり、かかりつけ医や協力医療機関と連携を図り、適切な医療が継続して受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、利用者様一人ひとりの体調や表情の変化に気付き、見逃すことのないよう、見守り、観察を行って異常の早期発見に努め、病院看護師や訪問看護師と常に連携をとりながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、病院関係者との情報交換に努め、入院時には、ご本人様の不安が軽減できるように頻繁にお見舞いに行き、安心して治療をし、早く回復できるよう支援している。また、退院前には病院でのカンファレンスに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所でできることを明確にしつつ事業所の方針を説明し、ご本人様の意志やご家族様の意向を確認している。利用者様の心身状況の変化に応じて、ご本人様やご家族様の意向を再確認し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に、慌てることなく適切な処置が確実に行えるようマニュアルを作成し、実践力を身に付けられるよう内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震・水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者様が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、一人ひとりの状態を把握し、それぞれ対しての具体的な救助方法を検討し訓練を通して実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や人格を尊重し、尊厳やプライバシーを損ねることなく、その方に合った支援ができるよう職員間で確認し合っている。個々の性格や生活パターンを把握し、さりげない気配りや声かけに配慮したケアの実践に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での、何気ない会話やしぐさ・表情から思いや希望を汲み取り、たくさんの選択肢の中で、その人らしく自己決定のできる生活が送れるよう支援している。利用者様との会話を心がけ、待つ姿勢を持つことで、ご本人様の思いが表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の一日の生活を大切にし、ご本人様のペースでゆったりと過ごしていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握し、普段から清潔でその人らしいお洒落ができるよう支援している。また、お洒落をすることによって気分転換が図れるよう、外出時には、好みに合った衣類を購入し普段から自己選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内に炊事場があるため、調理風景を見たり香りを感じられる。事業所の畑で採れた季節の食材を使い、野菜の下ごしらえなどを手伝っていただくことにより食事への関心を高められるよう努めている。利用者様と職員が一緒に食卓を囲み家庭的な雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士が作成した献立を参考にし、栄養が偏らないようバランスに富んだ食事を提供している。個々の状態に応じた、食事形態や調理法、食事量や飲み物を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が口腔内の清潔保持の重要性を十分に理解し、食後のうがいや歯磨き・義歯洗浄など、その人に応じた支援を行い清潔保持に努めている。定期的に歯科衛生士の指導と歯科医師の診察を受け口腔ケアの大切さを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報を共有し、個々の排泄パターンや個々への必要なケアを理解することによって、トイレでの自立した排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で、こまめな水分補給や活動量の確保、食事内容の工夫を行い、個々に応じた便秘予防に努めている。排便時には、腹部のマッサージにより腸の動きを促すことにも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援を行い、入浴が楽しい時間になるよう努めている。また、自宅で入浴している時と同じように、ゆっくりゆったりと寛ぐことのできる時間になるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に応じて休息時間を設け、生活リズムを整えられるよう支援している。馴染みの寝具やお気に入りのぬいぐるみを置いたりし、室温にも気を付け、落ち着ける環境を整え安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の大切さや内容を理解し、飲み忘れや間違いのないよう重ねて確認をしている。薬の変更があった時には、症状の変化や普段と違う気付きを見逃さないよう職員間で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中で、ご本人様の希望に沿って、洗濯畳みや草抜きなどを役割として担っていただき、日々の生活に楽しみや張り合いを持つことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる外出や誕生日外出など、一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう努めている。日常的な散歩として近所へ出掛けたり、小学生や地域の方との交流を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご本人様が金銭を管理することの大切さを理解し、個々の状態によって所持ができるよう支援している。買い物外出時には、一人ひとりの能力に合わせて金銭を使用し、社会とのつながりが維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿って、いつでも家族様や大切な人に連絡が取れるよう支援している。電話や手紙を使い、一人ひとりの能力に合わせた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花や利用者様の作品、行事の写真などを飾り、利用者様がゆったりと居心地よく過ごす事ができるよう、明るい雰囲気づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファを置き一人の時間をゆったりと過ごすことができたり、利用者様同士で会話を楽しむなど思い思いの場所で寛ぐことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人様が安心して過ごすことができるよう使い慣れた家具や馴染みのある品を持ち込んでいただいたり、ご家族様の写真や好みのポスターを飾るなどし、一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、日々の生活の中で、一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、それぞれに合った支援により、雑巾を使い掃除をしたりベランダで洗濯物を干したりと、できるだけ自立した生活を安全に送っていただけるよう心がけている。		